

	<h1>ふくりゅう</h1>	特定非営利活動法人 日本水循環文化研究協会会報
		発行責任者 酒井 彰（理事長）
		令和5年3月24日 通巻108号

ふくりゅう 108号 目次

2023年度定例総会開催のご案内	1
第2回水循環文化研究発表会のご案内	1
「都市の医師—濱野弥四郎の軌跡—」翻訳への思い	鄧淑晶・鄧淑瑩 2
「水循環リテラシー向上のための教材作成」活動経過	高橋邦夫 3
ホームページを更新：コミュニケーションツールとして活用を！	5
理事の自己紹介	松岡隆文 5
理事会より	6
編集後記	6

定例総会開催ならびに講演会のご案内

改組・改称後初めてとなる定例総会を開催いたします。定款を改正いたしましたので、今回よりリモート参加、電子媒体での出欠届、委任状提出が可能になります。これまで、出席することが難しかった遠隔にお住まいの会員各位もリモート出席が可能になりました。詳しくは、総会議案書をお届けする際に、ご案内いたします。

総会議案書は6月に入りましたらお送りいたします。

2024年4月に水道行政が、国土交通省に移管されますが、総会終了後、元厚生省水道環境部長の坂本弘道氏を講師にお迎えして、講演会を開催します。

また同日午後、同じ会場で「第2回水循環文化研究発表会」を開催いたします。

記

日 時：2023年6月24日（土） 9:50～12:00
 （9:30 受付開始）

場 所：新宿NPO協働推進センター
 （新宿区高田馬場4丁目36-12）

次 第：

第1部 総会

○ 開会の辞 9:50

○ 総会議事次第

（1）定足数確認

（2）議長選任

（3）書記指名

（4）議事録署名人指名

（5）議 事

第1号議案 2023年度役員承認に関する件

※ 承認をいただいた後、直ちに互選会を開催し、理事長・副理事長を選任

○ 新理事長挨拶

第2号議案 2022年度事業報告ならびに会員の現況報告

第3号議案 2022年度収入支出状況報告及び会計監査の承認に関する件

第4号議案 財産目録の承認に関する件

第5号議案 2023年度事業計画及び予算に関する件

○ 閉会の辞 10:50

第2部 講演会 11:00～12:00

元厚生省水道環境部長 坂本弘道氏

演題(仮)：水道行政の国土交通省移管にあたって

第2回水循環文化研究発表会開催のご案内

第2回水循環文化研究発表会を以下の要領で開催いたします。昨年同様、応募申し込みの後、概要提出、発表後に論文原稿提出というスケジュールとなります。

一昨年以前と比べ、発表ならびに論文執筆がしやすくなったと思いますし、海外からでもリモート発表ができるようになりました。しかしながら、昨年度

の発表者は限られていました。理事会としても応募者を増やせるように努めてまいりたいとかがえておりますが、会員各位におかれましても積極的な参加をお願いしたいと思います。なお、当日午前中は、定例総会、講演会を開催します。

記

日時：2023年6月24日（土）13:00～16:45
 12:30（受付開始）
 会場：新宿 NPO 協働推進センター
 （東京都新宿区高田馬場4丁目36-12）

論文の応募等のスケジュールは以下の通りです。

- 応募申し込み締め切り 5月12日（金）
- 論文概要提出締め切り 5月31日（水）
- 論文発表 6月24日（土）
- 論文提出締め切り 8月19日（土）

研究発表会は、論文応募要領（別紙あるいは本協

会ホームページを参照ください）による論文応募に応じて、プログラムを作成します。論文応募分野は以下の通りといたしますが、水に関する広範なテーマを受け付けてまいりたいと思いますので、募集分野に記載の例示にとらわれず、応募してください。

- ① 水循環文化史：水循環の変遷、歴史、近代化遺産、水循環文化功労者など
 - ② 水循環健全化活動：水循環健全化に向けた活動、水循環に関わる調査など
 - ③ 水循環管理：水循環管理に関わる研究、水インフラのガバナンスに関する研究、政策提言など
 - ④ 国際協力・海外水文化：開発途上地域での水に関わる国際協力活動の経験、途上国の状況に適した技術、海外の水文化・水事情など
- なお、国際協力政策、同実践論等に関する論文から、「バルトン記念賞」を選考します。選考対象となることを希望される方は応募用紙の所定の箇所にチェックマークを入れてください。また、各分野で優秀論文を選考いたします。

『都市の医師—濱野弥四郎の軌跡』翻訳への思い

とう しゅくしやう とう しゅくえい
 鄧 淑晶・鄧 淑瑩

『都市の医師—濱野弥四郎の軌跡—』の台湾版は、昨年（2022年）台湾・台南市により、旧台南水道給水100周年記念事業の一環として発行されました。私は、妹・鄧淑瑩と共に『バルトン先生、明治の日本を駆ける』の台湾版の翻訳に引き続き担当させていただきました。台湾版の発刊は、私達姉妹にとって何より光栄なことです。

台南市の出版計画では、翻訳期間は僅か6ヶ月しかありませんでした。翻訳に当たり、幾つかの困難を乗り越えてきました。その困難とは、以下の二項目にまとめられます。

- ① まず字数が非常に多いこと。半年で完成できるかどうか、不安がありました。何しろ『都市の医師』の原本の20万字程度と台湾版の後書きの2万字あまり、併せて総計22万字以上です。
 翻訳は意識するのか、直訳するか、多くのところで悩みました。結局、校正段階で内容を再度見直し、その都度適宜意識を使ったり、直訳を採用したりしました。
- ② 内容がとても豊富で濱野さん以外に、濱野さんを囲む歴史、文化、国際情勢、日本事情など、多くの情報が必要だったこと。例えば、百年前の日本の国会開設の背景、教育の方針と方式、学校の状況、衛生面の問題などです。調べるにつれて、また、『バルトン先生』の時に蓄積した知識、例えば用語（特に土木技術用語）、地理・環境、国際環境なども役に立って、適切な言葉を選択できるようになりました。

このように幾つかの困難がありましたが、その分収穫も大きかったです。収穫とは、次のようなものです。

- ① バルトン先生をはじめ濱野弥四郎らが、台湾に強い愛着を感じ、台湾のため一生懸命に努力し、水道の整備・建設を自分の使命としている真摯な姿勢に感動しました。私も見習わなければならないと感じました。また、これら先人の功績を40年近く研究し、台湾と日本との交流の根底の礎を記録していた原著者の精神力と強い意思に敬意を表します。台湾と日本との交流の深化を願う私達姉妹にとって良いお手本になりました。
- ② バルトン先生の来日経路を追加することにより、先生が日本本土に第



台湾で出版された「都市的醫師」

一步を印されるまでの長い旅路が解明されて、とても良かったです。

- ③ 『都市の医師—濱野弥四郎の軌跡』の台湾版の後書きによって、台湾における濱野さんの時代と現



濱野弥四郎の胸像の前にて、「日本台湾友の会」の一行(2023年2月)

在とが繋がり、また、司馬遼太郎の「国家とは何か」とも繋がりました。現在も続いているロシアとウクライナの戦争は、台湾に警鐘を鳴らしているように思います。この後書きを通し、台湾の人々が「生命の水」や「自由」を、そして「自分達の国」を如何にして守るかという重大な問題を他人事でなく自分の問題として考えることができれば、と期待しております。

最後になりますが、『都市の医師』の翻訳の機会を与えていただいた原著者・稲場先生をはじめ、校正の蘇明通さん、多くの日本の古文の現代語訳を教えていただいた日本の友人に心より感謝いたします。また、微力ですが、少しでも台日交流の力になれば幸いです。

(2023年2月16日攪筆)

※編集者注：「都市の医師」台湾版発行のニュースはホームページを参照ください。また、原著者稲場紀久雄評議員が、「“都市の医師”は守る！日台友好と心体の健全発達」と題する論考を水道産業新聞誌上に連載されました。この論考については、2023年度の機関誌「水循環文化研究」に掲載する予定です。

「水循環リテラシー向上のための教材作成」活動経過の報告

本会理事 高橋 邦夫

表題の活動は、2022年6月1日付で、一般財団法人日水コン水インフラ財団（3月16日、「水・地域イノベーション財団」に名称変更）の「助成・支援事業」（活動助成部門；本格コース）として採択されました。助成金額は、1,670,000円、助成期間は2023年3月31日までの10か月です。

この活動は、本会の2022年度事業計画としても承認されていますが、活動期間の終了を迎えるにあたり、改めて活動の目的について述べるとともに、活動経過、主な成果について報告します。

1. 活動の目的と内容

本会は「命の水の水守として、これまでの人と水循環の関係を見直し、次の世代に健全な水循環を継承していくことを目指す」というビジョンを掲げていますが、水循環の健全化のためには幅広い市民（生活者）の参加が必須と考えられます。市民の行動を促すためには、水循環リテラシー（水循環の健全化へ向けた行動を実践するための諸能力）を向上させるための社会教育が必要となります。本活動の目的は、人々の暮らしとの関係性を踏まえて、水循環を学べる水循環教材を作成することです。

教材作成にあたっては、水循環のもつ多様な側面と私たちの暮らしとの関連に留意し、「水循環とは・水循環の恵沢」、「暮らしと水循環の変容」、「水循環の変容がもたらす弊害」、「水循環の健全化に向けた活動事例」、「水循環健全化のための技術、制度、経済的手法」、「伝統知としての水循環文化」、「水循環活動への市民の参加」、「水循環文化を楽しむ」などのコンテンツから構成したいと考えています。

コンテンツの作成においては、文献調査に加え、特に「水循環の変容がもたらす弊害」、「水循環の健全化に向けた活動事例」、「伝統知としての水循環文化」、「水循環文化を楽しむ」などの項目では、こうした活動を実践する市民団体などと連携し、現地踏査、資料収集、ヒヤリングなどを通して、教材の執筆にあたっていきます。また、ホームページ上に専用サイトを設け、ここに教材を構成するコンテンツや関連情報を集約し、定期的にWeb版教材を編集していくことにしています。

2. 活動の経過

実施した活動として、「現地調査」、「講演会」、「小冊子版水循環教材出版」、「水循環情報共有サイトの開設」があげられます。

① 現地調査

現在まで以下の6か所を調査対象としました。訪問した結果はFacebookに速報を掲載し、訪問先の了解を得たうえで、ホームページに調査結果を掲載しています。（「本会の活動」→「これからの活動」→「水循環教材の作成」と進んでください）

- 1) 大野市（水循環の変化と地下水へのインパクト）：2022年9月
- 2) 西宮市（宮水の保全について；水循環文化の継承）：2022年10月
- 3) 三島市（柿田川の地下水保全）：2022年10月
- 4) 山梨県小菅村（源流域の保全と水循環）：2022年11月
- 5) WOTA株式会社（最新の水循環技術）：2022年11月
- 6) 大井川（発電用水と水循環の変容、水返せ運動）：2022年12月および2023年3月
- 7) 琵琶湖流域（針江の「かばた」、水循環文化の継承）：2023年3月予定

現地調査に関しては、関連調査文献などの既往知見をとりまとめ、予め課題の明確化を図り、調査に臨んでいます。そして、8月初めより現地調査の企画、訪問先への連絡など、段取りを始めましたが、コロナ禍の影響もあり、訪問先との日程調整がはかどらず、当初の予定から遅れが生じ、ようやく手始めに9月末に大野市訪問がかないました。

② 講演会

2023年2月に法政大学人間環境学部教授湯澤規子氏を講師に迎え、《縁の下の未来学—人糞地理学から考える「環」の世界》と題した講演会を開催しました。リモート参加も含めて約20名が参加しました。

人糞の流通から捉えた物質循環の環が、日本において、いつ、なぜ途絶えたのか。そして世界の趨勢は。自然を外部化した限りない人間活動の行く先は、など、気候風土に根差した生活文化からグローバル文明論にわたる広範な講演内容でした。（より詳しい「講演会報告」は、次号に掲載予定）

③ 「小冊子版水循環教材出版」

本格的な教材作成を10か月で終えることは容易なことではなく、ましてや本会のキャパシティでは不可能です。①に述べた「調査報告」は教材のコンテンツになり得るものと考えていますが、ボリューム的に当初の目論見を大きく下回り、活動成果として提示できるものが十分でないと考えられるところから、小冊子「水循環健全化に向けた身近な行動～私たちも水守の一員～」(A5判、56ページ)を編集するこ

とにしました。以下はそのまえがきの一節です。

この小冊子では、私たちのふだんの生活と水との関わりを知り、かけがえのない水を守るために、水循環の健全化に向けて私たちができることは何かをいっしょに考え、皆さん自身、家族、コミュニティなどの単位でできる行動のヒントを紹介しています。そのなかで、「これならできる」と思うことをぜひ実践してください。その行動が水循環の健全化とどう関わるのかを理解したうえでの実践なら、あなたはもう「水守」の一員です。



小冊子の表紙

④ 水循環情報共有サイトの開設

本会ホームページ上に「水循環教材の作成」サイトを開設し、会員各位等より、水循環健全化に向けた活動実践などの情報提供を受けられるようにしました。本活動担当者による現地調査報告だけでなく、広く情報を収集するとともに、このサイトに集約された情報の公開・共有を図っていけるようにしています。

3. 今後の活動について

息長く教材作成に取り組んで行くため、今後とも現地調査による情報収集は継続していきます。また、本会の取組み活動や講演会から、教材のコンテンツにふさわしい内容を抽出していきたいと考えています。それとともに、上記④で述べたように、会員各位より、教材のコンテンツになりえる情報の積極的な提供をいただきたいと思います。そのうえで、数年先には本格的な教材を編集できるようにしたいと考えています。まずは、ホームページの「水循環教材の作成」ページを訪れてみてください。

ホームページを更新:コミュニケーションツールとして活用を!

改組のタイミングに合わせ、昨年7月ごろに本会ホームページを更新いたしました。デザインなど、見違えるように刷新されました。その後も、以前よりずっと高い頻度で、ニュースやお知らせ、活動成果などをアップデートしてきました。

今回、やや大がかりな更新をいたしました。これは、本年度の事業計画で承認されている以下の活動に対応するものです。

① アーカイブ作成

② 「水循環教材」コンテンツの受付け

これらは、ホームページを通して、会員の皆様、そして広く社会との情報交換・共有につながるものです。

アーカイブについては、日本下水文化研究会時代の成果である機関誌に掲載された講演録等をホームページに掲載し、誰でも検索し、ダウンロードできるようにしようとするものです。講演録を探している人が参照できるように内容の紹介文を付けていこうと思います。

この活動は、数年にわたって事業計画にあげておきながら、着手できずにいましたが、このたび、機関誌13号を先行して、アーカイブページを立ち上げました。今後順次拡大していきますが、講演数は莫大です。ので、「あの講演の紹介文は私が書こう」という方は是非ご協力ください。

いずれは、キーワード検索など機能を充実させ、さらに読まれた方がレビューを投稿できるようにして

いければと思っています。

「水循環教材」については、助成活動の報告でも述べられていることですが、教材のコンテンツになるような情報提供を会員各位等に求めるにあたり、文書、写真などのファイルをアップロードすることができるようにしました。こちらでは、水循環教材に結びつくような情報提供を受付けて行きたいと思いますが、広く水循環に関連する情報もアップロードしていただけるようにしました。

研究発表会については、ホームページ上ですでに募集開始していますが、開催要領、応募にあたって必要な様式などもホームページからダウンロードできるようになっています。

ホームページは、理事会から会員の皆様にお知らせを送るだけの一方通行では、その機能を果たしているとはいえません。まだまだ改善の余地はあると思いますが、新たに作成したページを通して、会員各位と理事会、会員の皆様同士のコミュニケーションツールとして活用していただきたいと切に思います。同様に、Facebookもコミュニケーションに活かしてください。

ここで紹介しているページは、ホームページの最初のページの左側に並んだバナーをクリックしてもらえれば行けるようになっていますが、分からなければ新たに作ったお問合せフォーム(「本会について」の一番下)を利用してお尋ねください。

(酒井彰記)

理事の自己紹介

松岡 隆文

日本の水関係の歴史を調べることにゴルフを趣味としています。初めは日本の近代建築と水処理の関係を調査しているうちに、多くの著名な先生がたにお会いすることになり、ご指導して頂きました。著名な先生は顔が広く、別の先生を紹介して下さったり、調査方法や考え方のヒントを下さったりしました。気が付くといつの間にか日本の水関係の歴史を調べることに今日に至りました。

水に関することは多岐にわたり海、川、湖、池、飲料水、下水、処理水、雨、地下水、運河、等数え切れないくらいあります。皆さんは水関係の1本の原稿

くらい簡単に書けるでしょうが、遅筆の私はなかなか書けません。昨年は水門に関して1編書きました。少なくとも1年に1本だけ原稿を書くことを目標にしていますが、今年はまだ内容を決めかねています。自分の足で調査するのを旨としていますので、データや資料が集まればエンジンに火が入るのですが、今のところまだです。ついでながらゴルフの目標は前年度のベストスコア更新です。花粉症の季節が終わればすっきりと原稿もゴルフも頑張りたいと思います。

理事会より

● 定款変更手続き完了

8月2日付で申請していた改称を含む定款変更について、10月3日付で東京都より認証されました。その後、10月31日付で法人登記も終わりました。ホームページでは逐次お知らせしてまいりましたが、会報でのお知らせがたいへん遅くなりましたことお詫びいたします。

承認された改定定款では、「事業の種類」等の重要事項だけでなく、総会委任状提出の電子化が可能となり、リモート参加も正式な出席と認められることとなります。

事務的なこととなりますが、会費振込伝票を含め、金融機関の名義変更手続きも済ませました。

編集後記

107号を発行してから、半年以上経過してしまいましたが、ニュースやお知らせはホームページを通じてお届けしてまいりました。ホームページにシンポジウム講演録をアップロードしたときなどには、メールでお知らせもしてきました。折を見て、ホームページを訪れてください▶高橋理事から報告がありましたが、水・地域イノベーション財団（旧称：日水コン水インフラ財団）で採択された活動については、申請した活動内容を予定通りに進めることができませんでした。本会の活動キャパシティについて、見直す機会にするべきかと思えます▶「アーカイブス」作成については、数年間にわたり、事業計画で取り上げながら、着手されてきませんでした。先送りを繰り返してきた理由のひとつは、過去の講演録をスキャンするところから始めなければとならいう固定観念に捉われてきたことがあり

ます。最近の機関誌は Word ファイルが残っているので、PDF作成はすぐできるということに誰も気付かず、スキャンもやり方は分かっているながら、誰も率先してやろうとしなかった結果です▶こうした「活動」や「作業」は、理事のみに委ねられているわけではありませんが、会員各位から承認をいただく事業計画を立てる際には、実施体制を明確にしておくなど、その立て方について、再考が必要ではないかと思っています▶アーカイブスの作業を進めるなかで、20年以上前の講演録を読み返しましたが、今に通じる考え方やモデルが提示されていたことに、改めて講演者に敬意の念をいただきました。講演録の全リスト、講演者名やタイトルでの検索は可能です。アーカイブページを訪れ、その充実にご協力をお力添えを期待します。

(酒井彰)

特定非営利活動法人 日本水循環文化研究協会

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番 第3東ビル710号室
TEL 03-5829-5843 e-mail: jade@jca.apc.org npo.jade@gmail.com
URL: <https://npo-jade.com> ◀ リニューアルされました！
Facebook: <http://www.facebook.com/groups/jadejapan/> ◀ メンバー登録を！